

2025・9・14【俳壇賞2025 Btee1全94句】選38句

17行3段組14ポ 2025年9月14日 22:40 へ1 桐10

壇 一番星も百番星も春の星	壇 大いなる牛も鹿の子も足四本	壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな
壇 一寸の深さに種や野焼して	壇 蜘蛛の子の早くも逃げの一手かな	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 野焼して残りし種や土の中	壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな	壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦かな	壇 折つてみる琴になる木の枯枝かな
壇 囀りに人の疎らなニュータウン	壇 庭の枇杷家族楽しむほどにかな	
壇 蝶死して花びらのごと吹かれをる	壇 天網の習作からす瓜の花	
壇 熊蜂の胴体が見え翅は見えず	壇 丈高きものこそ月に供ふべし	
壇 飛石の如く椿の踏まれある	壇 封筒の文の失せたる星祭	
壇 飛石の如く踏まれし落椿	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな	
壇 うめと読んで梅の字あらず山桜桃	壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨	
壇 滝壺を積み重ねたる雲の峰	壇 大型で丸い比重の西瓜かな	
壇 夏空へ外骨格が飛び立てる	壇 また一つ木の実の落る静けさよ	
壇 お昼寝の子の傍らに大昼寝	壇 国道の北と南や春を待つ	
壇 やはらかにゆるゆるとゆく夜店かな	壇 火吹き竹展示されをり虎落笛	
壇 裸子の「お」の付くお腹「せ」の背中	壇 ガス管をガスが流るる虎落笛	
壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は	壇 山眠るその懐の鳥獣	
壇 縁の下に雨音を聞く蟻地獄	壇 胸元の薔薇のほころぶセータかな	

2025・9・15【俳壇賞2025 B t ー2 全59句】 選19句

12行3段組14ボ
2025年9月15日 16:44
へ1 へ桐10

壇 一番星も百番星も春の星 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 丈高きものこそ月に供ふべし

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 蝶死して花びらのごと吹かれをる 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨

壇 落椿飛石のごと踏まれある 壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 うめと読んで梅の字あらず山桜桃 壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 夏空へ外骨格が飛び立てる 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 裸子の前後おなかとせなかり

壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は

壇 知らぬ間に居坐つてゐる蟻地獄

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦かな

壇 一番星も百番星も雛の夜 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 丈高きものこそ月に供ふべし

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 蝶死して花びらのごと吹かれをる 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 落椿飛石のごと踏まれある 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 夏空へ外骨格が飛び立てる 壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 裸子の前後お中とせ中あり 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は

壇 虚無なれや浅く凹みし蟻地獄

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 一番星も百番星も雛の夜 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口開く 壇 丈高き草こそ月に叶ふべし

壇 蝶死して花びらのごと吹かれをる 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 落椿飛石のごと踏まれある 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 夏の空外骨格が飛び立てる 壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 裸子の前後お中とせ中あり 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 ホルマリン漬にもされず蟬の殻

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 一番星も百番星も雛の客 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口開く 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 夏の空外骨格が飛び立てる 壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

2025・9・18【俳壇賞2025 B t-6全87句】選23句

12行3段組14ボ
2025年9月18日
16:37
へ1
へ桐10

壇 一寸の深さに種や野焼跡	壇 天網の習作からす瓜の花
壇 一番星も十番星も雛の客	壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数	壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな
壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる	壇 折り曲げて膝の高さよすいっちよん
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香	壇 秋の草すなはち萩ぞ万葉の
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな	壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻	壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄	壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦	

2025・6・19【俳壇賞2025 B t 7 全95句】選28句

12行3段組14ボ 2025年9月19日 17:42 へ1 へ桐10

壇 一番星も十番星も雛の客

壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 青葱の青と白とのあはひかな

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香

壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる

壇 折り曲げて膝の高さやすいつちよん

壇 虫干のセピア色とは虫の色

壇 秋の草すなはち萩ぞ万葉の

壇 裸子の前後、お中と、せ中かな

壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 播粉木と麵棒に日の短かけれ

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 わが息に汚れしマスク哀れなり

壇 一番星も十番星も雛の客	壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 播粉木と麵棒に日の短かけれ
壇 一寸の深さに種や野焼跡	壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥	壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数	壇 虫くうて虫とる糸を生めり蜘蛛	壇 金縁の眼鏡銀盤のスケーター
壇 架替の古き巢箱の集められ	壇 天網の習作からす瓜の花	壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃	壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香	壇 爽やかに心機一転やり直す	壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな	壇 青葱の青と白とのあはひかな
壇 虫干のセピア色とは虫の色	壇 折り曲げて膝の高さよすいっちよん	壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな	壇 秋の草すなはち萩ぞ万葉の	
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦	壇 腸へ志へと新酒酌む	
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻	壇 丈高き草こそ月に叶ひけり	
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄	壇 敗荷の自由闊達池広し	

壇 一番星も十番星も雛の客

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 わが息に汚れしマスク哀れなり

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数

壇 虫すうて虫とる糸を生めり蜘蛛

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 架け替への古き巢箱の集められ

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香

壇 折り曲げて膝の高さやすいつちよん

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てる

壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 虫干のセピア色とは虫の色

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 裸子の前後、お中と、せ中かな

壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 敗荷の自由闊達池広し

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 播粉木と麺棒に日の短かけれ

2025・9・24【俳壇賞2025 B t-10 全129句】 選33句

12行3段組14ポ 2025年9月24日 12:37 へ1 桐10

壇 一番星も十番星も雛の宴	壇 訝しむアイスクリーム前の蟻	壇 敗荷の自由闊達池広し
壇 一寸の深さに種や野焼跡	壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄	壇 播粉木と麵棒に日の短かけれ
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数	壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 胸元の薔薇のほころぶスエタかな
壇 架け替へて古き巢箱を集めをる	壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥	壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃	壇 虫すうて虫とる糸を生めり蜘蛛	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香	壇 天網の習作からす瓜の花	壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 切り離す切手と切手梅雨晴間	壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨	壇 日記買ふ生活必需品も買ふ
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てる	壇 折り曲げて膝の高さよすいちよん	壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな	壇 腸へ志へと新酒酌む	壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 虫干のセピア色とは虫の色	壇 爽やかに心機一転やり直す	
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな	
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦	壇 丈高き草こそ月に叶ひけり	

2025・9・26【俳壇賞2025 B t-11 全140句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月26日 05:51 へ1 桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に	壇 訝しむアイスクリーム前の蟻	壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 一寸の深さに種や野焼跡	壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄	壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数	壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 外されて古き巢箱や草の上	壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥	壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃	壇 虫すつて虫とる糸を吐けり蜘蛛	壇 日記買ひいつものボールペンも買ふ
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香	壇 天網の習作からす瓜の花	壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 切り離す切手と切手梅雨晴間	壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨	
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立つて	壇 折り曲げて膝の高さよすいっちよん	
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな	壇 腸へ志へと新酒酌む	
壇 虫干のセピア色とは虫の色	壇 爽やかに心機一転やり直す	
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな	
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦	壇 丈高き草こそ月に叶ひけり	

2025・6・27【俳壇賞2025 B t-12 全153句】 選29句

12行3段組14ボ 2025年9月27日 08:01 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に	壇 訝しむアイスクリーム前の蟻	壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 一寸の深さに種や野焼跡	壇 廃墟たり主の去りし蟻地獄	壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数	壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 外されて古き巢箱は草の上	壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥	壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃	壇 虫すうて虫とる糸を溜めり蜘蛛	壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香	壇 天網の習作からす瓜の花	
壇 切り離す切手と切手梅雨晴間	壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨	
壇 虫干のセピア色とは虫の色	壇 腸へ志へと新酒酌む	
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり	壇 爽やかに心機一転やり直す	
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな	壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな	
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて	壇 屈折の膝の高さやすいつちよん	
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦	壇 丈高き草こそ月に叶ひけり	

2025・9・28【俳壇賞2025 B t-13 全165句】 選27句

12行3段組14ボ 2025年9月28日 10:22 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に

壇 虫すうて虫とる糸を溜めり蜘蛛

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 外されて古き巣箱は草の上

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな

壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 裸子はお中、せ中に挟まれて

壇 屈折の膝の高さよすいっちよん

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 廃墟たり打ち捨てられし蟻地獄

壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

2025・9・28【俳壇賞2025 B t 14 全170句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月28日 16:58 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に

壇 虫すうて虫とる糸を溜めり蜘蛛

壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 外されて古き巣箱は草の上

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 草枯れてブロック塀は存へて

壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな

壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 裸子はお中、せ中に挟まれて

壇 屈折の膝の高さよすいっちよん

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 膝曲げて背ナより高しすいっちよん

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 廃墟とは打ち捨てられし蟻地獄

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 我こそは芒の味方月の使者

2025・9・29【俳壇賞2025 B t-15 全185句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月29日 08:45 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 草枯れてブロック塀は垂直に

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る

壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 膝高く曲げし力やすいつちよん

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 我こそは芒の味方月の使者

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

2025・9・29【俳壇賞2025 B t 16 全18二句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月29日 17:07 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥は踵を効かせ着水す

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 猫の子の猛獣に似る欠伸かな 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 草枯れてブロック塀は垂直に

壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 跳躍は膝高く曲げすいつちよん

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 我こそは芒の味方月の使者

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥は踵を効かせ着水す

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 草枯れてブロック塀は不動なり

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る

壇 梅雨傘を抜かるまでのビニ袋 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 跳躍は膝高く曲げすいつちよん

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 我こそは芒の味方月の使者

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥は踵を効かせ着水す

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 草枯れてブロック塀のねずみ色

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 髪刈つてばかり床屋の年詰る

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 高飛びの膝高く曲げすいつちよん

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 蟻地獄うち捨てられて塵埃 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 秋冬と春にもあれど夏の蠅 壇 我こそは芒の味方月の使者

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

2025・9・30【俳壇賞2025 B t 19 全197句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月30日 08:19 へ1 へ桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛

壇 胸元の薔薇のほつれしスエタかな

壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 水鳥は踵を効かせ着水す

壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 草枯れてブロック塀のねずみ色

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 髪刈つてばかりの床屋年詰る

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる早かな 壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 鰯らの誰彼もなきつまれかな

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 高飛びの膝高く曲げすいつちよん

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな

壇 用済みの蟻地獄には塵埃 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 秋冬と春にもあれど夏の蠅 壇 我こそは芒の味方月の使者

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ